

横浜市

歴史

NEWS

27

2008・9

博物館

- ◇ 特別展「縄文文化円熟—華蔵台遺跡と後・晩期社会—」によせて
- ◇ 「小田原ちょうちんづくり」横浜マリノス株式会社とのタイアップ事業レポート
- ◇ 〈研究余話〉「旧小机領三十三所子歳観音霊場」をめぐって
- ◇ 収集・収蔵資料の紹介 [28] 伝西川虎吉製造第1号オルガン
- ◇ 〈常設展示室探検〉歴史劇場のプロジェクトリニューアル!
- ◇ あなたのお気に入りには?—企画展「絵でみる考古学」から—
- ◇ 〈ちょいとミュージアムショップたいむ〉はにわ・土偶のキューピー
- ◇ 〈知ってますか?〉メールマガジンを始めました



## 特別展

# 縄文文化円熟

けしようだい  
— 華蔵台遺跡と後・晩期社会 —

によせて

今から四千年ほど前、それまで栄えていた縄文社会が、気候の寒冷化と共に衰退してしまいます。人々は住居「く」軒という

小さなグループに分散して暮らすようになりました。そうした生活の中で、次第に「祈り」「祭り」の役割が高くなってゆきます。気候が再び温暖化し、



華蔵台遺跡出土注口土器

社会が復調しても、祭祀の重要性は減退するどころか、さらに高まってきました。「祭り」「祈り」が非常に重要な位置を占める社会が形成されてゆきます。この秋開催される特別展「縄文文化円熟—華蔵台遺跡と後・晩期社会—」は、こうした時代・時期の社会と文化を対象としたものです。展示の副題にも出ている華蔵台遺跡は、都筑区に所在する遺跡です。横浜市内を見渡しても数少ない縄文後期・晩期に営まれた集落が見つかった華蔵台遺跡は、今回の展示を企画する契機となった遺跡でもあります。特別展は主に四つの分

野から構成されています。まず、縄文中期社会の崩壊から後期社会の成立を経て、縄文時代の終末近くまでの社会と文化の変遷を追求します。これは二〇年間にもわたった港北ニュータウン地域での遺跡群調査活動の、現時点でのまとめでもあります。少し難しい面もあるかと思いますが、この展示は、現在の考古学会でも最先端の研究成果がまとめられたもので、横浜が誇れる分野でもあります。次に、金沢区や南区を中心に、海岸部での生活の様子を観察します。金沢区金沢文庫にある称名寺貝塚や、釜利谷の青ヶ台貝塚、あるいは南区の稲荷山貝塚などから出土した、シカの角や貝などで作った漁労用具や装身具を多数展示して、海岸部での生活を紹介します。ここでは称名寺貝塚で剥ぎ取った貝塚の断面も展示されます。三番目の展示スペースでは、横浜周辺地域の様子をご覧ください。まずは東京湾を渡って千葉県市原市にある西広貝塚や祇園原貝塚、あるいは千葉市の加曽利貝塚からの出土遺物を展示し、その特色を紹介します。特に西広貝塚ではタカラガイなど、さまざまな貝で作った装飾品や、儀礼関係の品々が多数展示されます。次に、埼玉県

の大宮台地周辺の遺跡群に目を転じます。ここでは集落の中央を掘削して窪地とする、「中央窪地集落」が形成されました。多くの労働力を費やして、集落の中央に窪地を造った社会とはどのようなものだったのでしょうか。

近隣地域の最後は山梨県を中心とした、「石を多用した集落」を観察します。後期には特に石を使った住居や儀礼の場が多く造られますが、その中心のひとつが山梨県でした。北杜市にある金生遺跡などを題材に、石を多量に使った集落の様子をみていきます。

最後の展示コーナーは、この時期に発達した「精神文化」に迫ります。ヒスイなど、華麗な石や、シカの角を加工して作った装飾品、あるいは土で作った耳飾りなど、縄文文化の粋を集めます。また、祭祀に関係した遺物として、土偶や、動物をかたどった「動物型土製品」など、当時の人々の心が伝わってくるような、祭祀遺物も多く展示します。

以上の他にも、ここでは紹介しきれない、様々な展示をおこないます。また、この特別展期間中には、バスツアーや講演会などを催します。横浜市周辺地域の遺跡や地域の様子について、実際に見たり、地域の研究者にお話をうかがう機会を設けております。展示と共に、様々なイベントで、縄文時代後・晩期の社会と文化を体感していただければと思います。

会期 一〇月四日(土)〜十一月二日(月祝)  
(石井寛・財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター)

# 「小田原ちょうちんづくり」

## 横浜マリノス株式会社とのタイアップ事業レポート

二〇〇八年八月九日(土)、博物館の体験学習で作られた小田原ちょうちんが、日産スタジアムの夜空を彩りました。これは、横浜市歴史博物館と横浜マリノス株式会社(以下、マリノス)との共同事業で、博物館にとって初めての試みでした。この事業の企画から実施までをご報告します。

・二〇〇八年五月中旬 マリノスから博



体験学習にマリノスケがやってきた



夜空を彩る小田原ちょうちん

2008 J1リーグ戦 横浜F・マリノス ゲームスケジュール (10月以降、ホームゲームのみ)		
・第29節	10/19(日) 16:00	vs名古屋グランパス 於日産スタジアム
・第31節	11/8(土) 13:00	vs京都サンガF.C. 於日産スタジアム
・第33節	11/29(土) 14:00	vs東京ヴェルディ 於日産スタジアム

提供した参加者には、この日の試合のチケットが送られていたため、体験学習に参加した家族が何組か来場し、自分の作ったちょうちんを探し、写真を撮っていた。試合はマリノスが二対一でガンバ大阪に勝った。マリノスにとって一戦ぶりの勝利であった。(ちょうちんのご利益?)

以上です。博物館では、体験学習への意欲の向上や、同じ横浜に拠点を置く団体との協働を促進するため、今後もマリノスとさまざまな事業を行っていききたいと思います。

(小林紀子)

物館に、「体験学習 小田原ちょうちんづくり」について問い合わせがあった。この体験学習は、従来博物館で行われているものである。マリノスから、この体験学習を共同で行いたいという提案があり、双方のスタッフが話し合いを重ね、体験学習で作ったちょうちんを、横浜F・マリノスのホームゲームの際に開催される夏祭りイベントで飾るという企画

が決定した。

・二〇〇八年六月三日(火) 小田原ちょうちんの参加募集締切日。定員を超える応募があったため、抽選を行い、当選者には体験学習当日の案内と、マリノスちょうちん装飾についての案内を発送した。抽選、発送作業にはマリノスのスタッフの協力をうけた。

・二〇〇八年六月一四日(土)、一五日

(目) いよいよ体験学習当日。ちょうちんには好きな絵を入れることができるので、クラブのエンブレムや、選手への応援メッセージなどを描く参加者もいた。一五日午前の部には、クラブのキャプター、マリノスケも登場し、体験学習会場を盛り上げた。完成したちょうちんは、後日、掲出希望の参加者各自でマリノスへ郵送してもらった。

・二〇〇八年八月九日(土) この日、心配された雷雨もなく、日産スタジアムのトリコロールランド(東噴水広場)に、約六〇個の小田原ちょうちんがお目見えした。緑日に飾られるちょうちんのように、祭り空間の演出に一役かっていた。試合開始の午後七時近くになると、辺りは暗くなり、ちょうちんのあかりが一段ときれいに見えた。ちょうちんを

# 旧小机領三十三所子歳観音霊場をめぐって

## 一 地域霊場の成立

江戸時代も一八世紀に入ると、農村の生産力が上がり、日本列島全体が一つの市場圏として物流が盛んになり、庶民にも物質的・時間的に余裕が生じるようになりました。こうした中、数日程度で回ることでできる、いわば「地域霊場」ともいえるべき霊場が各地に成立していきます。

それ以前の霊場は、西国・坂東の三十三観音や秩父の三十四観音、あるいは四国の弘法大師八十八所、というように広い範囲の霊場を一月程度の日数をかけて巡拝するというもので、それを実行するためには、深い信仰心だけでなく、体力と時間と資金にもそれなりの余裕が必要であり、一般の人々が簡単に赴くことは困難でした。

新たにできた地域霊場は、こうした旧来からの霊場を模倣した「写し」(「移し」)が多く、たとえば江戸周辺の観音の地域霊場をみると、遠方にあるため赴くことが困難な西国三十三観音霊場の写しが多く成立しています。また、こうした地域霊場は、おおむね一二年に一回、十二支の年を決めて開帳を行っています。

横浜市域にもこうした地域霊場がいくつか存在しています。ここでは享保年中に成立した「旧小机領三十三所子歳観音霊場」(以下、小机領観音霊場と略称)について触れてみます。なお、小机領観音霊場は「子歳観音」と称されるように、子年ごとに開帳が行われ、今年・平成二〇年(二〇〇八)も四月一日〜五月六日にご開帳が行われました。

## 二 小机領観音霊場の範囲と分布

小机領観音霊場は、武蔵国橘樹郡小机村(港北区)の泉谷寺を第一番として、隣村の都筑郡本郷村(緑区)の法昌寺(現在は青葉区奈良に移転)を第三十三番とする観音霊場です。多摩郡に属する二十四番福寿院を除くと、いずれも武蔵国橘樹郡・都筑郡に存在しており、現在の行政区域でみると、川崎市麻生区の王禅寺(第二十一番)と町田市の福寿院(第二十四番)を除く三十一か寺が横浜市域に含まれ、鶴見区・神奈川区・港北区・都筑区・青葉区・緑区・旭区・保土ヶ谷区に展開しています(地図・別表参照)。

その特徴としては、(一)第一番泉谷寺(浄土宗)と橘樹郡鳥山村(港北区)

の第二番三會寺(真言宗)、さらには小机村の雲松院(曹洞宗)と本末関係を結ぶ札所が多数確認されるが、これは小田原北条氏の有力な支城であった小机城が存在していた戦国時代以来のものと思われまます。(二)江戸から西南へと伸びる三本の幹線道路(東海道・中原街道・矢倉沢往還)と、橘樹郡・都筑郡の交通の要衝である神奈川宿・神奈川湊へ向かう複数の神奈川道が、各所で交錯しながら、霊場の範囲内を縦横に通っており、東海道の神奈川宿、中原街道の佐江戸宿、矢倉沢往還の荏田宿と長津田宿等の宿場の存在とあわせて、霊場周辺の村々や江戸からの参詣人の通行・宿泊に便利であること。(三)札所の多くは、鶴見川本流(川谷本川)とその支流である恩田川・早淵川、及び帷子川の流域に存在しており、河川そのものを利用した水上交通や河川沿いに伸びる道を媒介とする交通網が想定され、それは鶴見川―橘樹郡生麦村(鶴見区)、帷子川―現在の相鉄線天王町駅付近という河口の所在点から、最終的には現在の横浜駅周辺を船舶の停泊地とした神奈川湊へ結節していくと考えられます。

## 三 霊場巡礼の時期と日数

子年ごとに行われる小机領観音霊場の巡礼に関する記録として、ここでは元治元年(一八六四)三月二十七日〜二十九日に都筑郡二俣川村(旭区)の男性六人が行った巡礼記録である「小机領三十三所観世音道中記」(「旭区郷土史」一一〇〜一一二頁所収)と、橘樹郡生麦村の名主関口家の日記である関口日記をみることにします。

「小机領三十三所観世音道中記」によれば、子年にあたる同年の開帳期間は、当初は三月朔日(三〇日)でしたが、さらに一〇日間延長され四月一〇日まで開帳されたこともあり、明治に入って暦法が変わる以前は、原則三月の開帳であったということになりました。また、巡礼の順序は、二俣川村の二十八番三佛寺(旭区)に最初に参詣しているように、札所の番号順ではなく、出発地から回りやすい順序で巡拝したことがわかります。巡礼に要した日数は二泊三日、おおむね一日あたり六〜七里(二四〜二八キロ)の徒歩距離となります。なお、この二泊三日が、かつての小机領観音霊場の巡礼日数と紹介

されることが多いのですが、実際に回って自分の経験（今年の開帳時に電車・バスを利用しながら半日単位での六日間）からいうと、三十三所全ての参拝を徒歩だけの二泊三日で行うのは、少々困難なように感じられました。

一方、関口日記には、寛政四年（一七



- |      |    |    |    |    |    |   |
|------|----|----|----|----|----|---|
| 1 番  | 小机 | 山田 | 泉谷 | 寺  | 淨  | 宗 |
| 2 番  | 鳥管 | 菅田 | 三勝 | 會寺 | 真言 | 宗 |
| 3 番  | 下管 | 田  | 最称 | 正觀 | 淨曹 | 宗 |
| 4 番  | 川島 | 川島 | 隨流 | 本覺 | 興寺 | 宗 |
| 5 番  | 青木 | 青木 | 宗慶 | 運寺 | 福寺 | 宗 |
| 6 番  | 神奈 | 川  | 東松 | 成院 | 圓應 | 宗 |
| 7 番  | 鶴見 | 尾  | 吉田 | 正福 | 寺  | 宗 |
| 8 番  | 太田 | 吉田 | 西方 | 念寺 | 龍雲 | 宗 |
| 9 番  | 尾  | 太田 | 西  | 龍雲 | 觀首 | 宗 |
| 10 番 | 吉田 | 吉田 | 正福 | 觀首 | 福寺 | 宗 |
| 11 番 | 新羽 | 新羽 | 西方 | 念寺 | 真言 | 宗 |
| 12 番 | 東  | 東  | 龍雲 | 觀首 | 真言 | 宗 |
| 13 番 | 池  | 池  | 觀首 | 觀首 | 真言 | 宗 |
| 14 番 | 茅ヶ | 茅ヶ | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |
| 15 番 | 田場 | 田場 | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |
| 16 番 | 大王 | 大王 | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |
| 17 番 | 恩田 | 恩田 | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |
| 18 番 | 小川 | 小川 | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |
| 19 番 | 北八 | 北八 | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |
| 20 番 | 小上 | 小上 | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |
| 21 番 | 二  | 二  | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |
| 22 番 | 寺  | 寺  | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |
| 23 番 | 山  | 山  | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |
| 24 番 | 山  | 山  | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |
| 25 番 | 山  | 山  | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |
| 26 番 | 山  | 山  | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |
| 27 番 | 山  | 山  | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |
| 28 番 | 山  | 山  | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |
| 29 番 | 山  | 山  | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |
| 30 番 | 山  | 山  | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |
| 31 番 | 山  | 山  | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |
| 32 番 | 山  | 山  | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |
| 33 番 | 山  | 山  | 真言 | 真言 | 真言 | 宗 |

九二〇間二月二日に女性を含めた九人が「新札願礼出立」のため生麦村を出発、二五日に「新札参り六人返り、夕七ツ時」、二六日に「新札参り四人帰り、七ツ時」という記載がみられます。寛政四年は子年ですので、「新札」とは小机領観音霊場の札所のこと。また、この年は閏二月に配置されたので、通常の三月開帳が閏二月になったものと思われる。また、巡礼日数は三泊四日ないし四泊五日となります。残念ながら具体的な巡礼のルートは判明しませんが、女性・年配者を含んだグループでは、むしろこの日数の方が一般的だったのではないでしょう。

#### 四 小机領観音霊場の成立と 発願主瀧野愛勝

小机領観音霊場の成立に関する資料として、その内容が紹介されているものに、第三十三番法昌寺に残されている宝曆七年（一七五七）建立の「第三十三表」の石碑と、第十二番歡成院（港北区）と第十六番専念寺（港北区）に存在する享保

年中の年紀を有する札所塔（札所標石）があります。この他、七番本覺寺・八番宗興寺（共に神奈川区）にも享保九年（一七二四）の札所塔が存在しています。その内容は紹介されていません。

法昌寺の「第三十三表」の文言については、大塚巖徳「観世音菩薩信仰―緑区における小机領三十三ヶ所子年観音霊場巡礼―」（『都筑文化』三）や『横浜市文化財調査報告書 第二十一輯の一』に紹介されており、大塚氏によれば、（一）小机霊場の発願主は瀧野愛勝で、法昌寺住職宗運和尚が願意を受け容れ、住職朝庵和尚・泉谷寺住職転上人の助力を得て開設された、（二）格式から泉谷寺転上人が代表となり寺社官辺筋の渉外を担当したようである、（三）享保年中近郷の三十三所霊場としての寺を選び、子年の宝曆六年（一七五六）に開帳した、と整理されています。

歡成院と専念寺の札所塔については、『横浜市文化財調査報告書 第十七輯』に所収されており、歡成院の札所塔は享保十一年（一七二六）一月七日の建立で「小机三拾三処十二番目」「太尾村妙智堂 歡成院支配」とあり、専念寺のものも享保十五年（一七三〇）二月の建立で「小机領三十三所観世音第十六番」と記されています。

このように、本霊場は、瀧野愛勝↓法昌寺宗運和尚↓同寺朝庵和尚・泉谷寺住職転上人という人的ネットワークにより、享保年中に成立し、宝曆六年に開帳を施行したということが、従来から指摘

されています。ただし、発願主である瀧野愛勝については、関連資料が無く、具体的な言及は行われていません。

今回、七番本覺寺・八番宗興寺の札所塔を実見したところ、「享保九甲辰天閏四月十日 現住梁國代」「小机廿三所七番目」「願主 青木町瀧之丁 瀧野重郎兵衛愛勝」（以上、本覺寺）と「享保九甲辰天閏四月吉日 現住梁苗代」「小机廿三所八番目」「願主 青木瀧之丁 瀧野重郎兵衛愛勝」（以上、宗興寺）の文言が確認でき、本霊場の発願主である瀧野愛勝が、東海道神奈川宿の青木町（神奈川区）瀧之丁（瀧野町）に居住していたことが確認できました。本覺寺と宗興寺は、法昌寺と同様に、小机村の雲松院の末であることから、前述のネットワークをふまえるならば、霊場成立に関わる流れは、瀧野愛勝↓本覺寺・宗興寺（↓雲松院）↓法昌寺↓泉谷寺になると考えられます。

とところで、地域霊場が成立するためには、個々の寺院や村落における信仰の展開と、それらを結びつける何らかの要因が必要になります。小机領観音霊場の場合、各札所における観音信仰が享保年間にはおおむね確立していたことを前提としつつ、それらを結びつけるものとして、戦国時代以来の泉谷寺・三會寺・雲松院の本末関係と、神奈川宿・神奈川湊からの神奈川道や、鶴見川・帷子川水系を利用して形成された経済的ネットワークが想定されるように思われます。

# 伝西川虎吉製造第一号オルガン

開港によって西洋の文化がもたらされた横浜には、かつて、西川というオルガン・ピアノを主に製造した楽器メーカーがありました。創業者は西川虎吉といひ、日本で初めてオルガンを量産した人物です。

西川虎吉は、現在の千葉県君津市の生まれで、明治初期に横浜にやってきました。横浜では、外国人居留地にいた多才な調律師クレーンと、そのパートナーとして調律師やピアノの販売を行っていたカイルのもとで、オルガンとピアノの製造技術を習い、明治一七年（一八八四）頃に国産の材料を用いてはじめてオルガンの製造を行いました



伝西川虎吉製造第1号オルガン



オルガンの銘板

た。

博物館では、平成一六年（二〇〇四）に「横浜風琴洋琴ものがたり」という展覧会を開催し、西川虎吉が製造した第一号と伝えられているオルガンを展示しましたが、この春、このオルガンが博物館の収蔵資料として仲間入りしました。

日本では足踏み式のオルガンを、一般にリードオルガンと呼んでいます。リードオルガンは空気を吸引するときに音を出すオルガンで、アメリカで改良されて普及し、日本でも普及しました。ところが、このオルガンは、空気を吹き出すときの風で音を出すハルモニウムと呼ばれるもので、主にヨーロッパで製造されていた形式です。

ふたの裏には「大日本横浜明治十七年五月第一号製造 西川寅吉」と刻印された真鍮製の銘板が取り付けられています。銘板の文字に注目しませよ

う。記されている文章を解釈すると、「日本の横浜で、明治一七年五月に第一号を製造した、西川寅吉」という内容になります。ほんとうに第一号であれば、銘板には「第一号製造」ではなく「第一号」と記されるのが自然ではないでしょうか。

またオルガンには、「東京音楽学校」（現・東京芸術大学）の焼印があります。東京音楽学校は明治二〇年（一八八七）に文部省音楽取調掛が改称されてできた学校です。明治一七年（一八八四）のオルガンに、なぜ「音楽取調掛」ではなく明治二〇年以降の「東京音楽学校」という焼印が押されたのでしょうか。

こうしたことから、オルガンは第一号と断定できませんでした。そのため、「伝西川虎吉製造第一号オルガン」としていません。しかし、今のところ、西川の銘が入ったハルモニウムはこの一台だけです。ハルモニウムは前述のように主にヨーロッパで製造されていました。虎吉が楽器製造の技術を学んだクレーンとカイルは、それぞれイギリス人・ドイツ人でした。するとこのオルガンは、虎吉が二人から学んだ技術をそのまま製造に活かしたと言えるでしょう。少なくとも、西川虎吉が製造した現存最古のオルガンと考えられるのです。

(刈田 均)

## 常設展示室探検

### 歴史劇場のプロジェクトリニユーアル!

横浜二万年の歴史を約一五分の音と映像で楽しむことの出来る歴史劇場は、博物館の開館以来、案内の鳥型ロボット（写真1）と共に、来館されるたくさんのお客様に親しまれてきました。その歴史劇場が、二〇〇八年四月に機器の一部をリニューアルしました。更新されたのは、三面のスクリーンに映像を投影する三台のプロジェクトです（写真2）。

それまでの三管式のものとは、しばしば画面の色に



(写真2) 新しくなったプロジェクタ



(写真1) 鳥口ボットも喜ぶ

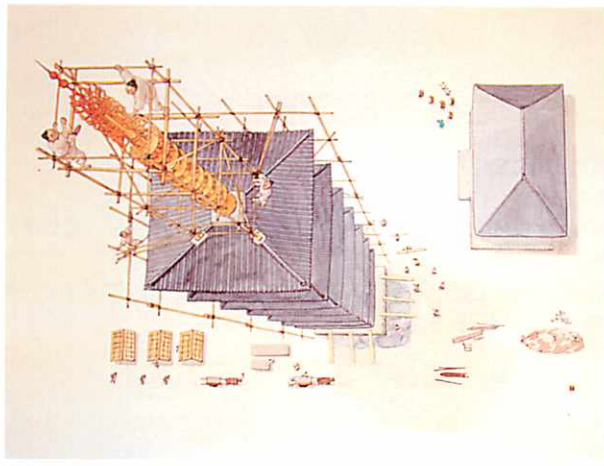
て、定期点検の泣き所の一つでもありました。実際に色の調整だけで六時間以上かかったこともあり（一）。新しいライト式のプロジェクトは、驚くほどの明るさで、映像をより美しく再現しており、常設展示室に常駐するスタッフたちも「みやすくなった」と口を揃えます。とくに大塚・歳勝土遺跡のシーンは、弥生時代の豊かな緑が画面に映えています。是非もう一度、新しくなった歴史劇場に足をお運びください。

# あなたのお気に入りは何？

— 企画展「絵でみる考古学」から —

四月五日（土）から五月一八日（日）まで、企画展「絵でみる考古学—早川和子原画展—」を開催し、考古復元イラストレーターの第一人者である早川和子さんが描いてきた、旧石器時代から平安時代に至る一〇八点の復元画の原画を紹介しました。遺跡から発掘された遺構や遺物を手がかりに、当時の人々が生活している様子を描くのが復元画です。それは、考古学の研究成果を、わかりやすくかつリアルに私たちに伝えてくれます。

多彩な原画が並ぶ中、観覧者の皆さんはどの絵に注目されるのだろうか？  
会期中の土・日曜日と祝日には、作品



圧倒的な人気を得た「塔を建てる」

の人気投票を実施しました。その結果、圧倒的な一番人気は、讃岐国分寺を題材とした「塔を建てる」でした。寄せられた五四〇票のうち九六票を獲得しました。早川さんの「だれもみたことのない構図で描いてみたかったの。…大変だったのよ：」というコメントのとおり、国分寺の塔の造営の状況を上空からの視点で描いた、迫力に満ちた作品です。確かに、こんな構図はみたことがありませんよね！

第二位は「猿と犬が遊ぶ庭」で、平城京の長屋王邸の庭における猿・犬・馬と人々の交わりを描いた、ほのぼのとした



ほのぼのとした「猿と犬が遊ぶ庭」。馬をひくには、これがないと…!

情感をもつ作品です。会場では「犬、カワイイ！」といった声も聞かれました。でもこの作品には「この部分：『実は書き忘れて：人にいわれるまで気づかなかったの ハハハ』とのコメントが付いていたのです。書き忘れ、どこかおわかりになりましたか？

第三位は、平安時代の貴族の邸宅、いわゆる「寝殿造り」を俯瞰した「平安貴族の邸宅」。以下、「大仏を造る」（奈良時代）、「わが子への想い（亡くなった子ども足跡：）」（縄文時代）、「最古の米つくりのムラ」（弥生時代）と続きます。「あつ！あの絵だ！」と原画が思い出されるのではないのでしょうか。三位から一〇位までは票数に大きな差がありませんでした。また時代別にみると、作品の数も多かったのですが、奈良時代・平城京の時代のものが半分以上を占めました。

ほとんどの作品に票が入っていることも特徴的です。観覧者の方々が、各々に自分のお気に入りを選ぶことができたのであり、いずれの作品も魅力的であったことを示す結果でしょう。独特の色づかい、詳細な書き込み、人々の生き生きとした表情。「心が暖かくなるような絵でした」との感想が寄せられたように、古代の息吹が間近に感じられるような素敵な作品ばかりでした。

（平野卓治）

ちよいと

## ミュージアムショップたいむ Museum Shop Time

『はにわ・土偶のキューピー』  
おっ！これは新発見の埴輪と土偶でしょうか？  
いえいえ、こちらは知る人ぞ知る埼玉の名店、「はにわ処さかもと」で発掘された、埴輪と土偶のキューピーさんです。カメラ目線がイケてるでしょ？

写真ではわかりませんが、赤いストラップが付いているので、携帯電話やカバンなどにぶら下げることができま



土偶キューピー  
はにわキューピー  
約四・三センチ写真右  
約三・七センチ写真左  
どちらも一個 五二五円（税込）

「はにわ処さかもと」さんは埼玉県行田市にある、埴輪や土偶、縄文石器や勾玉のレプリカなどを専門に扱うユニークなお店。当館のショップにはキューピーのほかに、四〇五センチ大の素焼きの豆埴輪や土偶、八センチ大の大きな天然石の勾玉なども入荷しております。おもしろい商品と出会えるかもしれませんよ。ぜひのぞきにきて下さいね！

## これからの催しもの

- ◎特別展「縄文文化円熟—華蔵台遺跡と後・晩期社会—」  
10月4日(土)～11月24日(月・祝)
- ◎企画展「平成20年度 横浜市指定・登録文化財展」[横浜の遺跡展]  
12月13日(土)～1月18日(日)
- ◎開港150周年記念企画展「同時代人が見た・聞いた開港前後の社会(仮題)」  
1月31日(土)～3月15日(日)

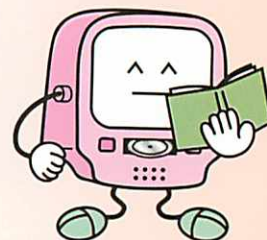
## 表紙写真は

華蔵台遺跡出土の土製耳飾り 本来、左右の耳に飾ったはずですが、華蔵台遺跡で対となって見つかったのは1例です。大きさも文様も様々ですが、写真の左下にある対の2つは繊細な彫刻で文様が表現されています。また、赤色顔料で色づけされていた痕が残るものも存在します。

## ?????? 知ってますか ??????

### メールマガジンを始めました

会期が終わってから、面白そうな展覧会が開催されていたことを知った、参加したいと思っていた催しものに申し込むのをすっかり忘れていた等で、残念な思いをしたことはありませんか。催しものの情報が自動的に手元に届けば便利だと思ったことはありませんか。



横浜市歴史博物館、横浜開港資料館、横浜都市発展記念館、横浜ユーラシア文化館、(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター、横浜市三殿台考古館、横浜市八聖殿郷土資料館ではメールマガジン「よこはま歴史かわら版」を開始しました。現在開催中の展覧会や募集中の催しもの等、最新の情報をメールでご紹介いたします。登録料は無料です。登録は当館ホームページ<http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/riyou/kawaraban.html>から行えます。このメールを見れば、博物館の最新情報をもれなくチェックできます。ときにはプレゼントも予定しています。みなさまのご登録をお待ちしています。

## 横浜市歴史博物館 日誌

二〇〇八年四月一日～二〇〇八年九月三〇日

- 4月2日 体験学習室ミニ展示「私たちが作った縄文土器展」開催(4月13日まで)
- 4月5日 企画展「絵でみる考古学—早川和子原画展—」開催(5月18日まで)
- 4月24日 ふるさと横浜探検「よこはま事始め 野毛地区」
- 4月26日 企画展関連講演会「考古イラストレーターってなに?」ラストサタデープログラム(原始I解説)体験学習「まがたまづくり」企画展関連「ギャラリートーク」体験学習「まがたまづくり」
- 5月6日 企画展関連「早川先生のたのしいイラスト教室」
- 5月14日 歴史講座「横浜の歴史」(6月11日まで)
- 5月22日 ふるさと横浜探検「旧東海道保土ヶ谷宿の歴史散歩」
- 5月31日 企画展「古代のムラの神・仏」開催(7月6日まで)ラストサタデープログラム(原始II解説・火起こし体験)企画展関連「フロアー・レクチャー」
- 6月1日 ふるさと横浜探検「香取・鹿島神宮と古代の常陸を訪ねて」
- 6月12日 体験学習「小田原ちようちん」
- 6月15日 企画展関連講演会「古代のムラの仏教施設」体験学習「小田原ちようちん」
- 6月18日 歴史講座「海上交通の歴史と横浜」(7月16日まで)
- 6月21日 企画展関連「フロアー・レクチャー」
- 6月22日 企画展関連講演会「古代相模・武蔵のムラと神々」
- 6月28日 ラストサタデープログラム(古代解説・火起こし体験)
- 7月3日 体験学習室ミニ展示「江戸時代の旅」(9月30日まで)
- 7月5日 企画展関連「フロアー・レクチャー」
- 7月8日 収蔵資料ミニ展示(7月13日まで)
- 7月13日 収蔵資料ミニ展示解説
- 7月19日 エントランスホールコンサート「ハープによる夏の旅」
- 7月26日 企画展「お願い!かみさま、ほとけさま—小絵馬に見るひとびとの願い—」開催(9月15日まで)ラストサタデープログラム(中世解説)
- 7月30日 体験学習「土偶づくり」
- 7月31日 体験学習「土偶づくり」
- 8月2日 旧暦七夕飾り(8月3日まで)
- 8月3日 夏休み博物館たんけん隊
- 8月5日 収蔵資料ミニ展示(8月10日まで)体験学習「まがたまづくり」
- 8月7日 体験学習「そめもの(万祝染)」
- 8月8日 古代人体験 体験学習「そめもの(万祝染)」
- 8月9日 小田原ちようちん掲出(日産スタジアム)
- 8月10日 企画展関連「やさしい展示解説」収蔵資料ミニ展示解説
- 8月13日 体験学習「まゆ細工」
- 8月14日 体験学習「縄文ポシェットづくり」
- 8月17日 企画展関連「やさしい展示解説」
- 8月22日 体験学習「まがたまづくり」
- 8月23日 体験学習「まがたまづくり」
- 8月24日 野焼き 夏休み博物館たんけん隊
- 8月30日 ラストサタデープログラム(近世解説)
- 8月31日 企画展関連「小絵馬をたずねて」
- 9月6日 竪穴住居に泊まろう(9月7日まで)
- 9月7日 企画展関連研究講座「絵馬とはなにか」
- 9月15日 企画展関連「やさしい展示解説」収蔵資料ミニ展示(9月21日まで)
- 9月21日 収蔵資料ミニ展示解説
- 9月27日 ラストサタデープログラム(近現代解説)

## 横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

### 編集後記

今年はいちだんと暑い夏でした。北京オリンピックが開催されテレビの前にくぎつけになった方もたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。今夏、博物館では横浜マリノス株式会社との協同事業や、中学生・高校生ボランティアを受け入れての七夕飾りなどを行い、新しい出会いがたくさんありました。今年も残すところあと三か月。来年は開港一五〇周年記念事業が目白押しです。どうぞお楽しみに。

- 開館時間 午前9時から午後5時まで(ただし、入館は午後4時30分まで) 大塚遺跡、都筑民家園を除く公園部分は24時間オープン
- 休館日 歴史博物館・大塚遺跡 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始 都筑民家園 毎月第3月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始 そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。
- 常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

- ◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。
- ◆毎週土曜日は、小・中・高校生は無料です。
- ◆「長寿のしおり」「敬老特別乗車証」「愛の手帳(療育手帳)」「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

- 交通案内 横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分(「センター北駅」へは横浜駅から23分 新横浜駅から12分)



- 駐車場あり(1時間200円)
- インターネットホームページ <http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

